

プレスリリース

The Museum of Modern Art, Saitama

ポール・デルヴォー展

夢をめぐる旅

Paul Delvaux Odyssee d'un rêve

2013年1月22日（火）～3月24日（日）

埼玉県立近代美術館

私は現実をある種の「夢」として描き表そうとしてきました。事物が本物らしい様相を保ちながらも詩的な意味を帯びている、そんな夢として。

ポール・デルヴォー

白昼夢のような情景、古代風の建物が並ぶ街、走り抜けていく鉄道、そして静かに佇む女性。ベルギーの画家ポール・デルヴォー(1897-1994)が描く世界は、夢と現実がひと続きになった甘美な幻想に満ちています。

デルヴォーは、印象派風の風景画やベルギーの表現派に影響を受けた人物画を描いていましたが、1930年代にシュルレアリスムに触れ、独自の作風に向かいます。自らの体験と深く結び付いた、思い入れのあるモチーフが重要な役割を担い、鉄道や駅舎、女性像、骸骨などが繰り返し登場し、デルヴォー独特の神秘的な世界が描かれました。

この展覧会では、作者の愛蔵していた鉄道模型やオイルランプなども展示し、絵画に表れるモチーフの起源をひもときながら、デルヴォーが生涯にわたって試みた夢の探求を紹介します。出品作品の約半数は、日本で初公開のものとなります。

■ 展覧会の見どころと展示構成

◎ 展覧会の見どころ

☞ ポール・デルヴォー美術館の全面的な協力により開催されるこの展覧会は、ほとんどの出品作品をベルギーから借用しています。日本では見ることができない貴重な作品を、分かりやすい展示構成によって紹介し、初期から最晩年までのデルヴォーの画業を回顧します。

☞ 油彩画 27 点のうち 12 点、素描 59 点のうち 43 点が、日本で初公開の作品となります。また、この展覧会は巡回展として組織されていますが、当館だけ展示される特別出品の油彩画《バルコニー》（プレスリリース写真 No. 4）があります。

☞ デルヴォーは鉄道好きの画家として知られており、鉄道は重要なモチーフとして度々描かれました。この展覧会では鉄道が登場する絵画やトラムを描いた素描に加え、デルヴォー自身が愛蔵していた貴重な鉄道模型（プレスリリース写真 No. 9）も展示します。

◎ **展示構成**：下記の 5 つの章によって構成されます。

第 1 章 写実主義と印象主義の影響・・・最初期のデルヴォーは、写実主義と印象主義の影響のもと、慣れ親しんだ風景、旅の記憶、幼少期の思い出などが重なり合った絵画を描きました。生地アンティがあるワロン地方、人生の大半を過ごすことになるブリュッセル、北海周辺のフランドル地方などが、風景として度々描かれました。また、デルヴォーにとって重要なモチーフとなる鉄道も、旅、冒険、自由の象徴として画面に登場しています。

第 2 章 表現主義の影響・・・1920 年代半ばになると観察をもとにした写実的な描写から離れ、次第に主観的な表現を伴う絵画へと向かいます。運命的な女性であった「タム」ことアンヌ＝マリー・マルトラールとの恋や別離という私生活の出来事もあり、作風は内面的な感情を示すようになります。そこにはベルギーのフランドル地方の表現主義からの影響も読みとれます。人物像、とりわけ女性像が重要性を増していったのもこの時期です。

第 3 章 シュルレアリスムの影響・・・シュルレアリスムやデ・キリコ作品との出会い、スピッツネル博物館で精巧な蠟人形「眠れるヴィーナス」を見た体験などが、デルヴォーに転機をもたらします。やがて、裸婦や古代風の建築物などが自由に配置され、無意識や詩的雰囲気を感じさせる独創的な画風が生まれます。こういったデルヴォーの絵画は、シュルレアリスムとの類似性を指摘できるかもしれませんが、しかし、シュルレアリスムの革命的な思想や前衛的な手法にはデルヴォーは無関心で、大きな相違が見られます。むしろデルヴォーは、シュルレアリスム的な表現に触れながらも、自分の人生の本質的問題を独自の見方で解釈し、自らの世界を形作ろうとしたと言えるでしょう。

第 4 章 ポール・デルヴォーの世界・・・子どもが心地よい空想の世界を想像するように、デルヴォーも思い入れのある物や人物、場所や建物を繰り返し描き、自分だけの世界を築きあげようとしてきました。「私が創造したいのは、その中に自分が生きている、生きることができる寓話的な絵画なのです」と、デルヴォーは語っています。この章では、鉄道や駅舎、建築物、骸骨、女性像など、デルヴォーが好んで描いたモチーフに焦点をあて、その世界を読み解いていきます。

第 5 章 旅の終わり・・・晩年、視力が衰えていったデルヴォーは、以前と同じような作品は描けなくなりますが、制作を続けます。視覚よりも直観を重視して描かれた作品は、躍動的な筆使いが見られます。また、不安を感じさせる表現は減り、平穩で瞑想的な作風が大きな特徴になっています。最晩年の作品では、鉄道、建築物、骸骨などのモチーフが消え、漠然とした世界の中に女性像がひときわ神秘的な姿で描かれています。

■ 関連イベント

◇講演会「ポール・デルヴォーを探偵する」 講師：新保博久（ミステリー評論家）

3月10日（日）午後3時～4時30分／2階講堂／定員：先着100名／料金：無料／内容：デルヴォーの作品群を巨大な1冊の推理小説を読むように解き明かします。

◇上映会「ベルギーの現代演劇：モス＝ボンテ特集」

上映作品：「シェルシ・スイート」（1990年）、「悪天候」（1997年）／3月17日（日）午後1時～、3時～（2回上映。上映時間約40分）／2階講堂／定員：先着100名／料金：無料／配給：ダンス・アンド・メディア・ジャパン／内容：ニコール・モスとパトリック・ボンテが主宰するモス＝ボンテは、現代のベルギーを代表する劇団です。謎めいた男女の関係や夢の世界を幻想的に描いた映像作品を紹介します。

◇担当学芸員によるギャラリー・トーク

1月26日（土）、2月23日（土）／各日とも午後3時から30分程度／2階企画展示室内／企画展観覧料が必要です。

■ EXHIBITION DATA

- 1 会期 2013年1月22日（火）～3月24日（日）
休館日：月曜日（2月11日は開館）
- 2 開館時間 午前10時～午後5時30分（入場は閉館の30分前まで）
- 3 観覧料 観覧料：一般1100円（880円）、大高生880円（710円）（ ）内は団体20名以上の料金。
※中学生以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方（付き添いの方1名を含む）は無料です。
※併せてMOMASコレクション（1F常設展示室）もご覧いただけます。
※前売券 [一般1100円⇒880円／大高生880円⇒710円]：12月22日（土）より、全国のセブンイレブンにて販売開始。1月8日（火）より当館受付でも販売。
- 4 主催 埼玉県立近代美術館
- 5 後援 ベルギー大使館
- 6 協力 エールフランス航空／KLMオランダ航空、JR東日本大宮支社、FM NACK5
- 7 特別協力 ポール・デルヴォー美術館
- 8 企画協力 (株)ブレントラスト
- 9 会場案内 埼玉県立近代美術館 〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 TEL. 048-824-0111
JR京浜東北線北浦和駅西口から徒歩3分、北浦和公園内（東京方面からは大宮行きをご利用ください。）
- 10 問合わせ 埼玉県立近代美術館 担当：平野、大久保
広報・写真に関してのお問い合わせ：植村 kouhou@momas.jp
TEL:048-824-0111(代表)、048-824-0110(学芸) Fax:048-824-0118
- 11 ホームページ <http://momas.jp/>



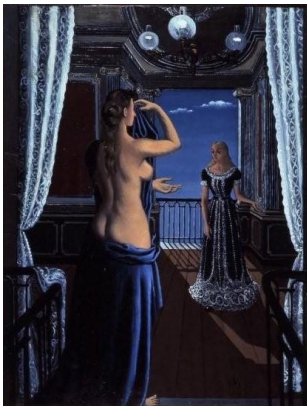
1



2



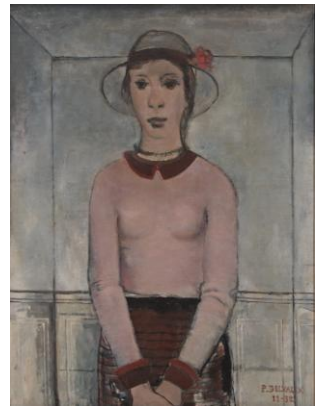
3



4



5



6



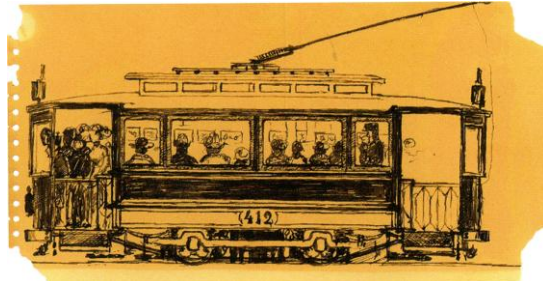
7



8



9



10

1. ポートレート(1978年)
2. 「グラン・マラドの水門(南側の眺望)」1921年、個人蔵
3. 「夜明け」1944年、個人蔵
4. 「バルコニー」1948年、個人蔵
5. 「トンネル」1978年、ポール・デルヴォー財団蔵
6. 「バラ色のブラウスの若い女性」1932年、個人蔵
7. 「会話」1944年、サイモン・コレクション(パトリック・デロム・ギャラリー)蔵
8. 「森」1948年、埼玉県立近代美術館蔵
9. 列車模型「OB12」、ポール・デルヴォー財団蔵
10. 「チョコレート色のトラム」1933年、ポール・デルヴォー財団蔵

©Paul Delvaux Foundation, Belgium

■写真はデータにて提供いたします。ご請求はメールで、kouhou@momas.jp (広報担当・植村)まで。

■この展覧会の広報記事として出品作品を掲載する場合は、著作権料は無料です。ただし、作品名等のデータ、および「©Paul Delvaux Foundation, Belgium」のクレジットを必ず記載してください。また、図版掲載の際は、トリミング、文字載せなどはしないようお願いいたします。